

事業所管部局による点検						
	項 目			評 価	評価に関する説明	
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。			○	CGIARの活動は我が国が支援している農業分野での研究でこれまで様々な成果をあげており、引き続き国として支援する必要がある。	
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。			○		
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。			○		
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。			—	当該国際機関は人件費を始めとする共通経費の削減等につとめている。	
	受益者との負担関係は妥当であるか。			—		
	単位当たりコストの水準は妥当か。			—		
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。			○		
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			○		
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)			—		
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。			○	平成24年度事業は活動実績及び成果目標共に見込みに見合ったものとなっている。当該事業で修復された設備等も十分に活用されている。	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。			○		
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。			○		
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。 (役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)			—		
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
点検結果	我が国はTICADプロセスにおいてアフリカの農業開発(コメの生産倍増等)にコミットするほか、2008年の北海道洞爺湖サミット以来、他の先進諸国とともに世界の食料安全保障の実現にもコミットしているが、特に2011年のG20サミットや2012年のG8サミットにおいて食料安全保障における農業研究の重要性が強調されている。 様々に異なる開発途上国の自然条件に適応した品種改良や天然資源の管理や保全等の農業研究は、二国間援助の中で全て実施することは困難であり、豊富な遺伝資源やグローバルな知見を有するCGIARに対する支援を通じて実施する方が効率的・効果的である。 2009年以降、CGIARは組織・活動内容・活動の評価など、業務の見直しを行っているところであるが、これらの取組状況は理事会や総会において審議されており、我が国としても引き続き加盟国とともに参加して積極的な関与を図っていく必要がある。 事業内容については引き続き適切に把握し、事業が効果的に実施できるよう注視していく必要がある。					
外部有識者の所見						
行政事業レビュー推進チームの所見						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	89	平成23年	98	平成24年	124